

2021年03月16日 3面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#)  [印刷](#) 

前田道路／朝霞合材工場（埼玉県朝霞市）に蓄熱式脱臭炉を導入／ＣＯ２排出量を削減

前田道路は、埼玉県朝霞市にある朝霞合材工場に蓄熱式脱臭炉を導入した。熱を蓄積して熱効率の高い脱臭を行う装置で、アスファルト特有の臭気の発生を防止すると同時に、臭気を処理する際の二酸化炭素（ＣＯ２）排出量を削減する。工場周辺で市街化が進んでいることに対応した。導入した蓄熱式脱臭炉は塗料関係の臭気対策に使われるケースが多く、同社によるとアスファルトプラントへの導入は初という。

導入した脱臭炉の排ガス処理能力は毎分６３７立方メートル。都市ガスを燃料とする。新規骨材、再生骨材いずれの施設に対しても脱臭できる点が特徴。蓄熱材を活用して高効率な脱臭を行うため、ＣＯ２の削減にも寄与する。従来式の脱臭炉と比較して、脱臭の過程で生じるＣＯ２の排出量を７０％程度削減する。処理した排ガスは煙突から熱風や水蒸気として排出する。

同社は合材プラントでの環境負荷低減と臭気対策を目的に２０１９年、川崎合材工場（川崎市川崎区）で蓄熱式脱臭炉を試験導入した。高効率な脱臭処理を確認できたことから、同社が保有する大規模合材工場の一つである朝霞合材工場への導入を決めた。今後は他の合材工場にも段階的に導入していく考え。

朝霞合材工場は１９７３年からアスファルト混合物などの製造・販売を行っている。近年は工場周辺の市街化が進んでいることから、周辺環境に配慮した臭気の対策を検討していた。

記事ID：3202103160309

---

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます